

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [八千代市立大和田南小学校] 担当教諭名 [平田 早紀] (6年 126名)

相手国・地域 [ギリシャ]

海外学校名 [13th Primary School of Polichni, Thessaloniki] 担当教諭名 [Kostoula Stypa]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	「国調べをしよう」 「届け！わたしたちのメッセージ！！」	40
	外国語活動	Self-Introduction	5
	図画工作	壁画制作 ～世界へのメッセージを絵に表そう～	5

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	2020年から2030年へ！このすばらしい地球をプレゼントしよう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	SDGsの達成が叫ばれている昨今。コロナ禍で世界中の人々が自分たちの生活や考え方を見直す機会を得た。そんな時だからこそ、SDGsの達成を目指して私たちが今できることはなにか、一人一人が考えていかなければならない。2020年の私たちが、この素晴らしい地球を守り、よりよい星へと変化させ、2030年の未来へプレゼントしよう、という思いが込められている。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの問題に向き合う視点が、よりグローバルなものへ変化した。 世界という大きな視点で物事を見た時に新しい視点や気づきを得ることができた。 ギリシャという相手国がいることで、相手意識をもって情報を発信したり活動したりすることができ、意欲喚起につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍という特異な状況だったため、相手校が休校になり意見交換や自己紹介が思うように進められなかった。 メールやフォーラムでの交流にも時間がかかり、円滑なコミュニケーションは難しかった。 子どもたちにギリシャの存在を意識させたり、相手の意見をくみ取って考えさせたりすることに限界を感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 相手の国の文化や現在の状況を知ることで、より意欲的に学習を進めることができた。 新型コロナウイルスの感染拡大により、自分たちと同じ、またはより過酷な状況下に置かれている相手国のことを考え、今自分たちにできることを考えようという視点をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手国も同じコロナ禍に置かれているからこそ、相手国に対しての思いやりや親しみをもつことができた。 相手国の先生方の対応や児童の活動を知り、互いの国の教育のすばらしさにも気付くことができた。 世界に目を向けることによって、児童がより広い視点をもって物事を考えることができるようになり、教師の視点もより広く国際的なものに変化した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月	<ul style="list-style-type: none"> ギリシャについて紹介 国についての調べ学習 自己紹介動画の作成 	ギリシャという国について知らない児童が多かった。交流をすることになり、相手国について知りたいという意欲が高まった。調べ学習を通して相手国についての理解を深め、日本についても動画で自己紹介を行う等活动が広がっていった。	総合9 外国語1
共有 テーマ学習	9月	<ul style="list-style-type: none"> テーマ決定 テーマについての話し合い 調べ学習 テーマ解決のための具体的活動 	「コロナ禍においてSDGsの目標を達成するにはどうしたらよいか」というテーマについて、学級ごとに話し合いを行った。同時に調べ学習を進めた。テーマの解決のためには具体的に一人一人が活動すること、SDGsについての理解を深めることが重要だという結論に至った。	総合9 外国語2
融合 メッセージ作成	10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> メッセージを動画やパワーポイントで作成 テーマ解決のための具体的活動 	SDGsの活動を広めるために、パワーポイントや動画を使ってメッセージを発信した。同時に自分たちでもSDGsの達成に向けた具体的な活動を行い、ギリシャに活動報告を行った。	総合11 外国語2
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> 壁画について話し合い 下絵完成 日本側の色塗り完成 ギリシャへ向けて発送 	壁画には、「SDGsを達成し、2020年から2030年へ美しい地球をプレゼントしよう」というメッセージを込めた。日本側の絵を完成させ、ギリシャに発送した。ギリシャが休校で両国の子どもたち同士での話し合いはかなわなかったが、その分日本が思いを込めて作成しようと意欲を高めることができた。	総合1 図工5
評価 振り返り 自己評価	1月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> 活動のまとめ、振り返り 完成した壁画を鑑賞 	ギリシャが壁画を制作している間も、校内の児童にSDGsを広めたいと活動を継続した。完成した壁画を鑑賞し、達成感を味わった。ここで活動を終わらせず、これからも継続していきたいと決意することができた。	総合10

■アートマイルでつけた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	ギリシャについてインターネットや本を使って詳しく調べることができた。相手意識をもって取り組めたので、意欲を高く持って興味深く調べる様子が見られた。また、相手国を知るうちに、自国の良さや違いについても気付くことができた。より自国に対する理解や自国愛が深まった様子だった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	コロナ禍で活動するには、様々な制限をクリアしなければならなかった。その中で、一度思いついた活動でも、再考して活動内容を見直したり、対策を考える等柔軟に対応したりしようとする様子が見られた。教師からトップダウンで活動内容を決めるのではなく、自分たちの考えのもと、時には自分たちの活動や国の対策について批判的な思考を向けながら活動を進めることができていた。
主体的に考え行動する力	5	教師主導の学習ではなく、児童自らが主体的に問題意識をもち活動を行うことができるよう環境を整えた。児童は自由に発想を広げ、テーマについて考え、話し合いを活発に行うことができていた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	2	ギリシャの学校が長く休校だったため、両国の子どもたち同士の意見を伝え合うことは非常に難しい状況だった。そんな中でも、相手国のために、相手国の代わりに自分達ができることはないか考え、行動することができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	ギリシャの先生とも連絡を取りながら、どんなメッセージを世界に発信したいかを話し合った。話し合いからまとめ上げたメッセージを絵に表現することができた。